

プレス発表資料

平成24年6月20日

独立行政法人 防災科学技術研究所

「災害・復興アーカイブシンポジウム in 宮城」を開催

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、2012年7月6日（金）13時～16時、石巻市河北総合センターにて、「災害・復興アーカイブシンポジウム in 宮城～被災自治体による包括的な災害及び復興過程の記録とその活用～」を開催します。

岩手県、宮城県、福島県の被災自治体の災害・復興アーカイブの実務担当者が集い、災害と復興の記録と活用の在り方について意見交換します。特に、アーカイブに取り組む被災自治体間の広域的な協力ネットワークづくりや、国等への提案について討論します。アーカイブの活用方策は、防災計画や災害対策の検証や防災教育等への活用はじめ、アーカイブを通じた有形無形の文化再生や人材養成、復興に資する社会起業支援も検討します。また、当研究所がオープンソースで開発中の自治体向けの災害・復興アーカイブクラウドシステムの展示を予定しております。

参加ご希望の方は下記 WEB サイトにてお申込み下さい。多数のご来場、お待ちしております。

<http://risk.ecom-plat.jp/hp/120706/>

1. 内容：別紙資料による。

2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
社会防災システム研究領域
災害リスク研究ユニット
長坂、須永
電話：029-863-7546

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
アウトリーチグループ
大石、松宮
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

「災害・復興アーカイブシンポジウムin宮城」を開催

1. シンポジウム名称

「災害・復興アーカイブシンポジウム in 宮城」

～被災自治体による包括的な災害及び復興過程の記録とその活用～

2. シンポジウム開催趣旨

東日本大震災は多くの尊い人命を奪い、また、住民の生活や地域コミュニティの絆、伝統・文化、産業など、地域に甚大な損害を及ぼしました。国の復興構想会議は、この大震災の記録を永遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教訓を次世代に伝承し、国内外に発信すると提言しています。一方、被災自治体では、住民等が災害時に記録した写真・ビデオを収集する取り組みや、被災住民の被災体験談をビデオで収録しオーラルヒストリーとして後世に伝承する取り組みがはじまりました。流された地域の文化・伝統、まちなみを過去の映像で復元する取り組みもみられます。被災自治体の防災対策や災害対応の検証を目的として、被害状況を把握するための地理空間情報や災害対応の関連資料のアーカイブもはじまりました。一方、被災自治体と NPO 等が協働し、被災地の復興過程の取り組みや課題をインタビュー等により定期的に記録しインターネット上で発信するなど、アーカイブを通じて被災地のコミュニティの絆の再生や被災地の若者による社会起業支援を応援する取り組みも始まりました。

本シンポジウムは、災害・復興アーカイブの視点から、災害資料の収集、復興過程の記録、その保存と公開、利活用の在り方等について、被災自治体の現在の取り組み事例を踏まえ、災害・復興のアーカイブスの取り組み方について情報共有を行うことを目的として開催するものです。

収集したアーカイブスとその利活用は、防災計画や災害対策の科学的な検証や防災教育等への活用に留まらず、地域の有形・無形の伝統文化や自然環境などの地域資源のコンテンツ化、それらを活用した観光振興、デジタルコンテンツ産業の創出、それらを支える人材養成、アーカイブを支援する NPO 等の社会起業支援の在り方についても情報共有します。

3. 開催概要

- 【主催】 独立行政法人 防災科学技術研究所、 石巻市
- 【共催】 311まるごとアーカイブス
- 【後援】 (岩手県) 岩手県庁、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、
(申請中を含む) 岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、遠野市、大船渡市、
陸前高田市、岩手県立図書館、
(宮城県) 宮城県庁、気仙沼市、南三陸町、女川町、東松島市、塩竈市、
七ヶ浜町、多賀城市、仙台市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町、
せんだいメディアテーク
(福島県) 福島県庁、新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、葛尾村、
田村市、川内村、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、いわき市
- 【日時】 2012年7月6日(金) 13:00~16:00
- 【会場】 石巻市河北総合センタービッグバン 文化交流センター
〒986-0102 宮城県石巻市成田字小塚裏畑54 0225-62-1120
- 【参加費】 無料
- 【定員】 200名
- ※どなたでも参加できます。ただし、応募多数の場合は、被災自治体の方を優先させていただきます。
- ※アーカイブに携わりたい方の積極的なご参加をお待ちしております。
- ※極力、下記 HP より事前申し込みをお願いします。当日の飛び込み参加は可能ですが、配布資料をお渡しできない場合がございます。
- 【web サイト】 <http://risk.ecom-plat.jp/hp/120706/>

3. プログラム

【1】開会あいさつ

【2】事例紹介

先行する被災自治体の災害・復興アーカイブの取り組み事例を紹介します。アーカイブを進めるための財源や体制、ツール等の課題や工夫、アイデア等を交えて事例を紹介します。

【3】討論1

コーディネーター 長坂俊成（独立行政法人防災科学技術研究所主任研究員、311まるごとアーカイブス世話人）

会場の自治体のアーカイブに関わる実務担当者の方々との意見交換を行います。

主なテーマ：被災自治体が全庁的に、包括的かつ長期的に災害・復興のアーカイブに取り組むための組織的な位置づけ、地域との協働、被災自治体間のネットワークづくり、被災地での復興アーカイブセンターの設置（基金等）等国への提案、マスメディアが記録した被災前後の地域映像資料等の活用、仮設住宅のコミュニティなどプライバシーに配慮した社会的な長期・定期的な記録、多世代参加型のオーラルヒストリーなどについて、共通課題やノウハウの共有を図ります。

【4】 討論 2

アーカイブシステムの構築と運用、電子教材等アーカイブスの利活用システムの在り方、アーカイブを通じた人材養成、社会起業支援、復興ツーリズム等観光振興への活用、有形無形文化の再生・振興への活用など

【常時展示】

パネル展示、オーラルヒストリー等のビデオ上映、インターネット上のアーカイブスデモ展示、資料配布等を予定しています。

防災科学技術研究所が開発中の災害復興アーカイブシステム（オープンソース、ライセンスフリーで自治体等に無償公開）のデモを予定しています。

4. 参加申込み、お問い合わせ web サイト

参加申込およびお問い合わせは、以下の web サイトにて受け付けております。

<http://risk.ecom-plat.jp/hp/120706/>

5. 関連情報 「実務者連絡会議」の開催

同日(7/6 金)の午前 10 時～12 時、同会場にて「災害・復興アーカイブ 被災自治体等実務者連絡会議」を開催いたします。参加者は被災自治体の災害アーカイブ担当者となります。

本会議は、現場最前線で活動をする被災自治体等の公的機関における災害・復興アーカイブの視点から、災害資料の収集、復興過程の記録、その保存と公開、利活用の在り方等について、被災自治体の現在の取り組み事例を踏まえ、災害・復興のアーカイブスの取り組み方について情報共有を行うことを目的として開催するものです。今後、岩手県、宮城県、福島県等の被災地の自治体等の災害復興アーカイブの実務担当者により情報交換を継続して、ノ

ノウハウの共有や国等の関係機関との協力・連携を図ってゆきたいと思います。

収集したアーカイブとその利活用は、防災計画や災害対策の科学的な検証や防災教育等への活用に留まらず、地域の有形・無形の伝統文化や自然環境などの地域資源のコンテンツ化、それらを活用した観光振興、デジタルコンテンツ産業の創出、それらを支える人材養成、アーカイブを支援する NPO 等の社会起業支援の在り方について意見交換します。